

近江商人

滋賀

日野 東近江
(五個莊)
近江八幡

学べる
BOOK

近江商人って どんな人たち？

近江（現在の滋賀県）に本宅・本店を置き、他国で

商いをした商人達を総称して、「近江商人」と呼びます。

一 江戸～明治時代に活躍

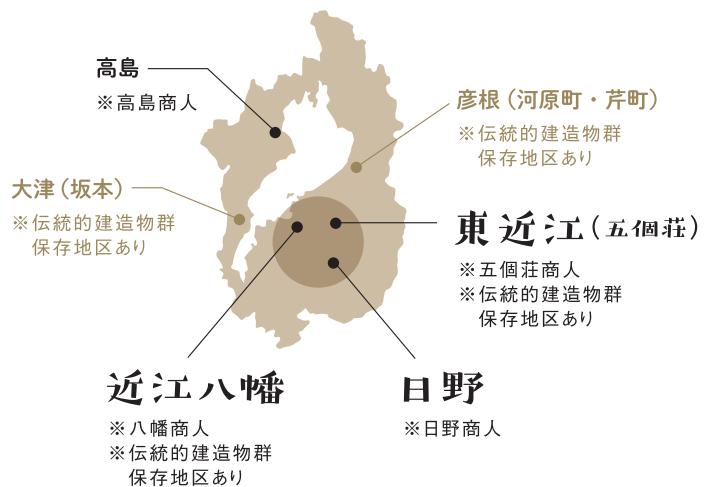
ふとんの西川やワコールなど、今に続く企業の創業者も多く輩出しています。近江八幡、東近江（五個荘）、日野は、特に多くの商人が活躍しました。

二 「質素儉約」「しまつしてきばる」

贅沢をせず、しまつして（無駄なお金を使わずに）長生きすることを心掛け、商いに励みました。

三 「三方よし」の精神

客の利便を考えたり社会事業に出資するなど、売り手だけでなく、買い手や世間にも利益がある商売を心掛けていました。



五個荘 STYLE

五個荘商人は、もともと農民で、農業の閑散期に行商を行ったのが始まり。太物（麻・綿の織物）や呉服を商いました。都市部の商品を地方で売り、その足で地方の商品を仕入れて戻る、産物廻しを得意としました。近江商人の本宅が残る金堂地区は、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けています。



おうみはちまん 近江八幡 STYLE

八幡山のふもとに本宅を構えたのが八幡商人。蚊帳や畳表、呉服が主力商品でした。有力な商家であった西川家の7代目は、ボーナス制度を取り入れたことで知られています。商人たちが活躍した頃の町並みは、伝統的建造物群保存地区として色濃く残ります。



ひの 日野 STYLE

日野商人は、日野椀や医薬品、小間物などの行商で発展しました。特にヒットした携帯用の薬「万病感應丸」は、ある商人が最後の一粒を落としてしまい、道中で苦しんだ経験から、転がりにくい半月形をしています。買ひ手を思った商品開発を行っていたことが分かります。



江戸時代の建築が残る
蚊帳や畳表を商っていた西川家の店舗兼住居跡。今は見学施設になっています。宝永3（1706）年築で、国の重要文化財に指定されています。



こつちが兄の家

屋根の高さが違う！

旧西川家（写真右）の目の前には、弟の屋敷（写真左）があります。二棟を見比べると、兄の家のほうが屋根が高くなっています。

全国でも超レア！

近江八幡

**旧西川家に残る
貴重な三階蔵**

江戸時代中期以降、幕府から出された役令により三階建ての蔵が禁止され、その前に建てられた蔵だけが残りました。今や全国でも数えるほどに。

接待部屋は豪華

歴史民俗資料館（旧森五郎兵衛邸）には、壁をベンガラで赤く塗り、ふすまに銀紙を貼った豪奢な部屋がありますが、これは得意先をもてなす接待部屋でした。



町並み保存地区にある屋敷には、入口付近に荷物運搬用の馬や牛をつなぐ輪がついています。

古着をリサイクル

古着は捨てるのではなく、美しいパッチワークに加工して、よだれかけなどとして再利用していました。



商家が図書館や学校に！

八幡商人「伴庄右衛門」の本宅として江戸後期に建てられた3階建て住居は、13年かけて建てられました。外観から豪華さが解らない造りになっていますが、土間の吹き抜けや大広間は圧巻！



主人と奉公人のスペース
商人屋敷の多くには住み込みの奉公人がいました。旧西川家では、右側の畳敷きのほうに主人、左側の板敷きのほうに奉公人の寝床がありました。

荷車用の大きな入口

荷物をくくり付けた車を屋敷に入れるために、旧西川家には跳（は）ね上げ戸という大きな戸があります。天井の滑車とロープを使い、戸を内側に持ち上げ開きます。



船でも
荷物を運んだよ

**うちわ広告は
近江商人が始めた！？**

商人たちが得意先に配っていたうちわには「日野町」の文字。近江商人たちはうちわで店のPRをしていました。



障子風のガラス戸

日野の職人によって建てられた旧山中兵右衛門邸には、力の殻を混ぜた障子紙風のガラスを戸にはめこむなど、独自の趣向が見られます。



敷居を傷つけない戸

引き戸は敷居と擦れない処理がされており、天井の竿縁は面取りされているなど、旧山中兵右衛門邸は、あちこちに細かな職人技が見られます。



モダンな洋間も！

「近江日野商人ふるさと館」として公開されている旧山中正吉邸は、純和風な外観とは裏腹に超モダンな洋間があります。

日野

**日野の一番の特徴は
桟敷窓とつしま階**

日野祭を見るための「桟敷窓」は、日野独特のしつらえ。「つしま階（※）」を有する、屋根が二重になった屋敷もよく見られます。（つしま=屋根裏の物置場）



主

人

と

奉

公

人

の

ス

ペ

ス

ト

。

主

人

と

奉

公

人

の

ス

ペ

ス

ト

。



水路の水を引き込む

各家々では街中を流れる水路から水を引き込み、「川戸」に貯めていました。洗い場や防火水槽として使います。



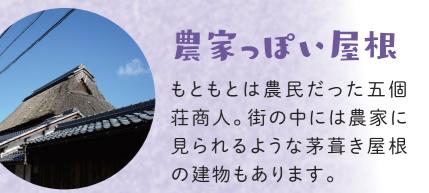
**舟板を外壁材に
五個荘独特の堀**

解体した舟から取った板を再利用した「舟板堀」は、五個荘の街のあちこちで見られます。中には舟の形がわかる板も。



床の間が狭い！

外村繁邸では床の間の幅が狭くなっていますが、その分を裏にある部屋の収納に充てています。合理性を重視していたことが窺えます。



もともとは農民だった五個荘商人。街の中には農家に見られるような茅葺き屋根の建物もあります。

外村宇兵衛邸など五個荘の屋敷では、荷物を二階に運びやすくするために、取り外しできる柱があります。

今も

蔵に

残る

家財

近江商人はケチと言われることがありますが、使うべきところには惜しまずお金を使い、家財などは良いものを長く大切に使いました。



おまけ

あちこちで
見られるもの

**景観を明るくする
堀越しの松**

道路に面する庭に、堀越しでも見える背の高い松「見越し松」を植え、景観美化に努めました。

**板堀・柱・壁などに
ベンガラが使われた**

防水・防虫効果があった赤色顔料のベンガラは、屋敷のさまざまなところに使われました。



まだある! /

近江商人のヒミツ

旅暮らしならではの ファッションは?

菅笠と合羽で、雨でも安心。長時間歩くので、足元はわらじと脚絆で万全。荷物は軽くて丈夫な柳や竹で編んだ天秤棒に入るようコンパクトに。大事な手控え帳(帳簿)は、腰にぶら下げておき、いつでもすぐ取り出せるようにしていました。

ボーナスは? お金の管理は?

「三つ割制度」といって、利益は本家上納、内部留保のほか、店員へも分配していました。これは、現在のボーナス制度の原型ともいわれます。「大福帳」は、現在の「総勘定元帳」にあたるもので、会計システムでも、時代を先取りしていたのです。

小さな子はままごと道具で家事を習っていました

女性教育が すごかった!

奉公人の教育や躰、家の財産管理は主人の妻の役割でした。婚期の近づいた商家の女子が、豪商の本家へ女中奉公に出て知識を身につけてから実家に戻る、「汐踏み」という風習がありました。



近江商人の 屋敷でお宝発見!!

平成20(2008)年9月、旧山中兵右衛門邸(近江日野商人館)の西蔵床下から出てきたのが、茨城県牛久で生産の牛久葡萄酒。現存最古の国産ワインは当時、東京・日本橋で購入したものといわれています。

近江に近江商人の 店はなかった!?

旅先で商売をするスタイルで各地に出店しましたが、地元はいわば「本社」的な存在。邸宅はあっても基本的に店頭販売はしていませんでした。

「学べるBOOK」では表紙デザインを竹皮にし、近江商人の心意気を包み込みました!



でっち羊羹って どんなお菓子?

小豆を煮て砂糖で味付け、小麦粉と練り合わせたものを竹の皮で包んで蒸したお菓子。丁稚の奉公先へのお土産だった、丁稚でも購入できるくらい安価だった、職人が餡と小麦をこねる作業を「でっちる」と称したなど、名前の由来は諸説あります。

あなたの 近江商人度をチェック!!



- 1 ワンシーズン限りの安物より、長く使える上等なものを選びがち
- 2 事業をするなら、店舗を増やしたり販売地域を拡げたい
- 3 節約はしているが、募金・プレゼントにはお金を惜しまない
- 4 お金持ちになんでも、なるべく質素な生活を中心がけたい
- 5 知らない土地や人と出会えることが楽しく感じるほうだ
- 6 おみやげならもらうのもあげるのもようかんが一番!

↓いくつ当てはまったかな?↓

0~1個

まだまだ!

丁稚

2~3個

もうひと息!

手代

4~5個

やるね!

番頭

6個

すごい!

主人

もっと近江商人を知りたい人はコチラをチェック!



お問合せ

近江八幡観光物産協会 0748-32-7003

東近江市観光協会 0748-29-3920

日野観光協会 0748-52-6577